

【作曲家ヘンデルについて】

18世紀の当時、ドイツの大バッハのように「オペラにトライしなかった作曲家」はむしろ例外的であり、彼と同年生まれのドイツ人、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル(1685-1759)の方が、作曲界の王道を歩む人と見做された。

ザクセン地方のハレに生まれたヘンデルは、まずはハンブルクでオペラを発表してからイタリアに赴き、劇場主に「作曲料は要らないから、自作を上演して欲しい」と頼んだという。結果、ヴェネツィアで初演した《アグリッピーナ》(1709)が評判を呼び、移住先のロンドンでは《リナルド》(1711)が圧倒的な成功を収めたので、ヘンデルはこの大都会に腰を据えてイタリア語のオペラを作り続けた。本日上演の《ジュリオ・チェーザレ》(原題:Giulio Cesare in Egitto)は、ヘンデルがロンドンで手掛けたオペラの11作目に当たる。

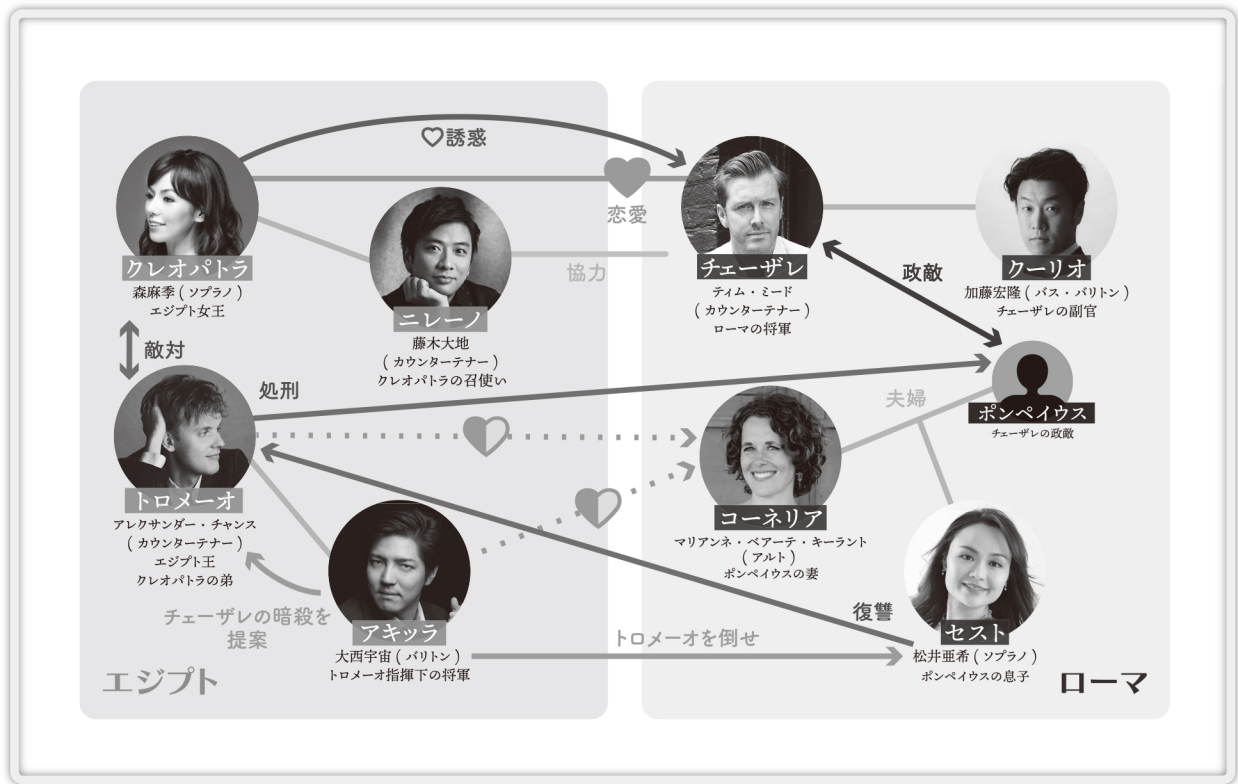
【曲目データ】

《ジュリオ・チェーザレ》全3幕の世界初演は1724年2月20日ロンドン、ヘイマーケット国王劇場にて。人気のカストラート(去勢歌手)セネジーノが題名役を歌い、クレオパトラを大ソプラノのクッツォーニが演じ、初日から大成功したと伝わっている。

台本はイタリア人のニコラ・フランチェスコ・ハイム(1678-1729)の筆。ただし、彼は他者の台本を翻案して本作を拵えた。具体的には、共和制ローマ末期の史実をもとにG.F.ブッサーニが著した同名のオペラ台本(A.サルトリオが作曲し1676年12月にヴェネツィアで初演)をアレンジしたもの。ハイムは元の台本の9名の登場人物のうち、「クレオパトラの乳母ロディスベ」を外し、残りの8名はそのまま活かしている。

【登場人物】

ジュリオ・チェーザレ(ローマの英雄):カストラート	クレオパトラ(エジプト女王):ソプラノ
コーネリア(亡きポンペイウスの妻):コントラルト	セスト(ポンペイウスとコーネリアの息子):ソプラノ
クーリオ(ローマの護民官):バス	トロメーオ(エジプト国王、クレオパトラの弟):カストラート
アキッラ(エジプトの司令官、トロメーオの腹心):バス	ニレーノ(女王と国王の召使):カストラート
*カストラートが居ない現代、カウンターテナーや女声など別の声種がその役を担当。	



【あらすじ】【見どころ聴きどころ】

前段

ローマの英雄チェーザレは、宿敵ポンペイウスを追ってエジプトに遠征。同地では姉クレオパトラと弟トロメーオが対立する。

第1幕

チェーザレの前にポンペイウスの妻コーネリアと息子セストが現れ、和平を望む。ところが、エジプトの將軍アキッラが「国王から」とポンペイウスの生首を差し出す。チェーザレは気分を害す(アリア〈醜い奴め〉)。コーネリアは自殺を試みるが、彼女を愛するローマの護民官クーリオがそれを制止。セストは父親の仇を打つと決意する。

クレオパトラは、チェーザレとの同盟を考える。アキッラはトロメーオに「コーネリアと結婚出来るなら、チェーザレを暗殺します」と提案。そのころ、チェーザレの陣営にはリディアと名乗る娘(クレオパトラ)が訪れ、勇将を美貌で虜にする。一方、コーネリアとセストの親子は仇討ちを考えるが、クレオパトラは、リディアの姿のまま二人に「女王に協力すべき」と説く。しかし、トロメーオがコーネリアとセストを引き離し、アキッラはコーネリアに言い寄る。母子は二重唱〈涙するために〉で悲運を嘆く。

第2幕

クレオパトラの庭園で、彼女は王冠を被ったリディアとして登場。ニレーノがチェーザレを連れてきてアリア〈時を無駄にする者は〉を歌う(1725年の追加曲。当時はネリーナという役名に変更されていたが、現在は元のニレーノに戻す)。女王は耽美的なアリア〈焦がれております、優しい眼差しよ〉でチェーザレを誘惑する。後宮の庭ではトロメーオの下女扱いされるコーネリアがアキッラを拒む。トロメーオもアリア〈冷たい女め〉でコーネリアに熱く迫る。リディアの姿のクレオパトラは、庭園でチェーザレと再会。しかし、クーリオが「陰謀の恐れあり」とトロメーオによるチェーザレ暗殺の動きを急報。慌てたクレオパトラは正体を明かす。チェーザレはアリア〈武器の煌めきをもって〉を勇ましく歌い、謀反者たちの合唱が舞台裏から被さる。

後宮ではトロメーオが悦に入る。アキッラが「チェーザレが海に飛び込み溺死した」と報告。コーネリアの身柄を求めるがトロメーオはそれを退ける。

第3幕

アキッラは怒り、女王の側につくと決意。しかし、戦闘を表すシンフォニア(器楽曲)が鳴り響き、トロメーオは姉を逮捕。クレオパトラはチェーザレが死んだと思い、アリア〈運命に涙し〉で嘆く。劇中随一の人気曲であり、中間部の爆発的な勢いと前後の静かな独白の対比をお楽しみに。ところがチェーザレは海辺に泳ぎ着いていた。セストとニレーノはひどく負傷したアキッラを発見。アキッラは今までの所業をセストに詫びて死ぬ。それを目撃したチェーザレは、セストの前に姿を現し、宮殿へ急ぐ。女王が自殺を決意すると、チェーザレが華々しく登場しトロメーオの配下を倒す。クレオパトラはアリア〈難破した船が嵐から〉を希望に満ちて歌う。王宮ではコーネリアがトロメーオを拒絶。セストが王に闘いを挑み、トロメーオを倒す。母は息子を讃える。チェーザレとクレオパトラが港に凱旋。コーネリアとセストは「トロメーオは亡くなりました」と伝え、チェーザレは女王と永遠の愛を二重唱で誓う。平和を願う人々も〈朗らかな喜びと楽しみよ〉を壮麗に合唱して幕となる。

バッハ・コレギウム・ジャパン 今後の公演情報

クリスマスと新年のカンタータ(第158回定期演奏会)

11月25日(土) 15:00 東京オペラシティ コンサートホール
11月26日(日) 15:00 神戸松蔭女子学院大学 チャペル

J. S. バッハ:
カンタータ第190番《主に向かって新しい歌を歌え》BWV 190(鈴木優人復元版)
管弦楽組曲第2番 ロ短調 BWV 1067 ほか
鈴木優人(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

ヘンデル: メサイア

12月17日(日) 15:00 埼玉会館
12月23日(土) 15:00 軽井沢大賀ホール
12月24日(日) 16:00 サントリーホール
鈴木雅明(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

【お問い合わせ】
バッハ・コレギウム・ジャパン・チケットセンター 03-5301-0950(12/23除く)
軽井沢大賀ホール 0267-31-5555(12/23のみ)

鈴木優人プロデュース／BCJオペラシリーズ Vol. 3



ヘンデル 歌劇《ジュリオ・チェーザレ》

セミ・ステージ形式

George Frideric Handel: Giulio Cesare in Egitto

2023年10月11日(水) 16:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

4:00p.m., Wednesday, October 11, 2023 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: JAPAN ARTS ジャパン・アーツ バッハ・コレギウム・ジャパン BACH JAPAN COLLECTION

共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

「来た、見た、勝った!」

みなさま、本日はようこそお越しくださいました。三年ぶりにジャパン・アーツとパッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)の共催による「鈴木優人プロデュース／BCJオペラシリーズ」を開催できますことを嬉しく思います。

バロック時代の名作オペラを取り上げる本シリーズ第三弾は、ヘンデルの名作「ジュリオ・チェーザレ」をお届けします。これまでと同じく、コンサートホールの優れた音響効果を活かし、ピットではなく舞台上にオーケストラがいるセミ・ステージ形式で、この目眩くドラマをお楽しみいただきたいと思います。演出はウィーンを拠点に世界で活躍する佐藤美晴さんです。

史実を題材に取りながらも、しかし詳しい知識がなくとも楽しめるエンターテインメントを劇場の世界にもたらしたヘンデル。イタリア語の作品でありながら、ロンドンの聴衆は、一目見ようと駆けつけました。優れたアリアやレクタティーヴォが言葉を引き立て、言葉が感情を引き出し、感情が物語を彩る、そしてその物語を通して歴史に新たな視点を発見できる、まさに啓蒙的な作品であるとも言えます。

ヨーロッパをまたぐように活躍したヘンデルには、ハノーファー選帝侯から異国の君主となったジョージ1世と、ジュリアス・シーザーが重なって見えたのかもしれません。専制君主の傍にいますからこそ見える、力強い人間性が巧みに音楽で描かれています。

今回、特筆に値する素晴らしい歌手のみなさん、オーケストラのメンバーが世界中から集まり、稽古に臨むことができたことは、前回「リナルド」公演においてコロナ禍の苦しみを味わった思い出があるだけに、なおさら深い喜びとなりました。また、通奏低音にも十人の素晴らしい奏者が集い、まるで「通奏低音パーティ」のようです。歌手が自在に歌えるよう、当意即妙に支える通奏低音の妙技も合わせてお楽しみいただけたら幸いです。

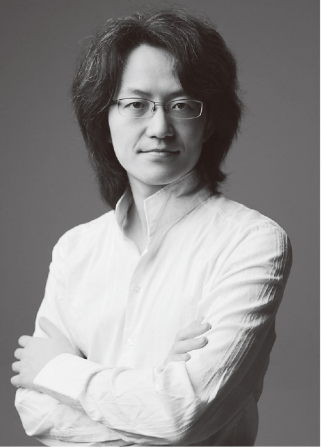
末筆ながら、全国三ヶ所(兵庫、東京、神奈川)を巡る本プロジェクトの実現のためにご尽力くださいました全ての皆様に感謝申し上げます。それでは、古代エジプトの末期を舞台にした幻想的なラブストーリーをどうぞお楽しみください!

鈴木 優人

ヘンデル: 歌劇《ジュリオ・チェーザレ》 (セミ・ステージ形式)
<i>George Frideric Handel</i> (1685-1759) : <i>Giulio Cesare in Egitto</i> HWV17
(全3幕／イタリア語上演・日本語字幕付)

指揮・チェンバロ: 鈴木 優人 <i>Conductor and Harpsichord: Masato Suzuki</i>	演出: 佐藤 美晴 <i>Stage Director: Miharu Sato</i>	照明操作: A.S.G <i>Lighting Operation: A.S.G</i>
チェーザレ: ティム・ミード <i>Cesare: Tim Mead</i>	衣裳: 白井 梨恵 <i>Costume Design: Rie Usui</i>	衣裳制作: 小山 つかさ 西山 梨香 <i>Costume: Tsukasa Koyama</i> <i>Rika Nishiyama</i>
クレオパトラ: 森 麻季 <i>Cleopatra: Maki Mori</i>	照明: 稲葉 直人 <i>Stage Lighting: Naoto Inaba</i>	ヘア・メイク: 高塚 好子 門間 裕子 <i>Hair and Makeup: Yoshico Takatsuka</i> <i>Yuko Monma</i>
コーネリア: マリアンネ・ベアーテ・キーラント <i>Cornelia: Marianne Beate Kielland</i>	舞台監督: 幸泉 浩司 蒲倉 潤 <i>Stage Manager: Hiroshi Koizumi</i> <i>Jun Kabakura</i>	ヘア・メイク(クレオパトラ) : 合田 和人 (D-GO) <i>Hair and Makeup(cleopatra): Goda Kazuhito (D-GO)</i>
クーリオ: 加藤 宏隆 <i>Curio: Hirotaka Kato</i>	副指揮: 根本 卓也 <i>Assistant Conductor: Takuya Nemoto</i>	字幕翻訳: 増田 恵子 <i>Subtitle Translation: Keiko Masuda</i>
セスト: 松井 亜希 <i>Sesto: Aki Matsui</i>	舞台監督助手: 小田原 築 山田 真代 <i>Assistant Stage Manager: Kizuku Odabara</i> <i>Mayo Yamada</i>	字幕操作: Zimaku+ <i>Subtitle Operation: Zimaku+</i>
トロメーオ: アレクサンダー・チャンス <i>Tolomeo: Alexander Chance</i>	演出助手: 笹 亜里沙 <i>Assistant Stage Director: Arisa Tachi,</i>	動作指導: 佐野 功 <i>Motion Coach: Isao Sano</i>
アキッラ: 大西 宇宙 <i>Achilla: Takaaki Onishi</i>	小道具・履物: アートクリエイション <i>Stage Properties: Art Creation</i>	オーケストラ マネージャー: 杉浦 友彦 <i>Orchestra Manager: Tomohiko Sugiura</i>
ニレノ: 藤木 大地 <i>Nireno: Daichi Fujiki</i>		調律: 林 彰見 <i>Tuner: Akimi Hayashi</i>

Profile



© Marco Borggreve



© Yuji Hori

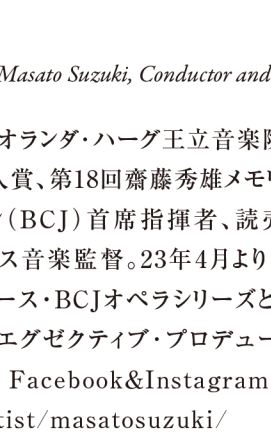
森 麻季(ソプラノ)
Maki Mori, Soprano

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。98年ワシントン・ナショナル・オペラでアメリカ・デビュー。ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》に出演を重ねて、国際的な評価を高める。BCJオペラは、17年《ボッペアの戴冠》、20年《リナルド》に出演。22年《椿姫》Bunkamuraシアター・オペラ・コンチェルトンテに出演。いずれも各紙で好評を得る。今夏、BBCプロムスにデビュー。透明感のある美声と深い音楽性は各方面から絶賛され、日本を代表するオペラ歌手として常に注目をあびる。2022年より国立音楽大学客員教授。ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。X(Twitter) :@makimori_sop Facebook :MakiMori.sop Instagram :makimori_sop/ https://www.japanarts.co.jp/artist/makimori/



© K. Mura

フラウト・トラヴェルソ Flauto traverso 菅 きよみ Kiyomi Suga	ヴァイオリンⅠ Violin I 若松 夏美 Natsumi Wakamatsu 荒木 優子 Yuko Araki 廣海 史帆 Shibo Hiromi
リコーダー Recorder 太田 光子 Mitsuko Ota 浅井 愛 Ai Asai	ヴァイオリンⅡ Violin II 高田 あずみ Azumi Takada 堀内 由紀 Yuki Horiuchi 山内 彩香 Ayaka Yamauchi
オーボエ Oboe 三宮 正満 Masamitsu San'nomiya 小花 恭花 Yasuka Kobana	ヴィオラ Viola 成田 寛 Hiroshi Narita 秋葉 美佳 Mika Akiba
ホルン Horn 福川 伸陽 Nobuaki Fukukawa 根本 めぐみ Megumi Nemoto 大野 雄太 Yuta Ohno 藤田 麻理絵 Marie Fujita	



© B. Ealovega

ティム・ミード(カウンターテナー)
Tim Mead, Countertenor

現代最高のカウンターテナーの一人として、バロック音楽はもちろん現代音楽の分野でも活躍している。これまでにバイエルン国立歌劇場、バリ国立歌劇場、ボリショイ歌劇場、アムステルダム・コンセルトヘボウ、グラインドボーン音楽祭をはじめ欧米各地に登場、コレギウム・ヴォカーレ・ヘント、レザール・フロリサン、バーミンガム市交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、RIAS室内合唱团等と共演してきた。オペラのレパートリーは、カヴァッリ「ラ・カリスト」、ヘンデル「リナルド」からブリテン「夏の夜の夢」、ベンジャミン「リットン・オン・スキン」まで幅広い。コンサートではベルゴレージ「スターバト・マーテル」、「メサイア」他ヘンデルの作品、パッハの受難曲、口短調ミサ曲等をたびたび歌っている。録音も数多い。

鈴木雅明が世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して結成したオーケストラと合唱团。2013年度第45回サントリー音楽賞を鈴木雅明と共に受賞。14年「パッハ：教会カンタータ全曲シリーズ」がエコー・クラシック賞、モーツァルト《ミサ曲ハ短調》(17年)、J. S. パッハ《マタイ受難曲》(20年)がグラモフォン賞を受賞。20年秋上演 鈴木優人指揮・ヘンデル《リナルド》は第19回佐川吉男音楽賞を受賞。海外公演も多く、23年6月ライブツイヒ・パッハ音楽祭フィナーレ公演に出演。 https://bachcollegiumjapan.org/

チェロ Violoncello 山本 徹 Toru Yamamoto 上村 文乃 Ayano Kamimura	テオルボ、ギター Theorbo, Guitar 佐藤 亜紀子 Akiko Sato
コントラバス Contrabbasso 今野 京 Takashi Konno	リュート Lute 野入 志津子 Shizuko Noiri
ファゴット Bassoon 河府 有紀 Yuki Kofu	ハープ Harp 伊藤 美恵 Mie Ito
ヴィオラ・ダ・ガンバ Viola da Gamba 福澤 宏 Hiroshi Fukuzawa	チェンバロ Cembalo 重岡 麻衣 Mai Shigeoka 鈴木 優人 Masato Suzuki 根本 卓也 Takuya Nemoto



© Liv Oviand



© Benjamin Ealovega



© Simon Pauly



© hiromasa



© Ayane Shindo

マリアンネ・ベアーテ・キーラント(アルト) *Mariaane Beate Kielland, Alto*

ヨーロッパ最高の歌手の一人。ノルウェー人歌手としては唯一グラミー賞にノミネートされた。ハノーヴァー国立歌劇場のアンサンブル・メンバーを振り出しに、主要なオーケストラとたびたび共演、17世紀の作品から現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、多方面で活躍している。近年では、東京の新国立劇場でアレッサンドリーニ指揮ヘンデル《ジュリオ・チェーザレ》の題名役のほかバーセル《ディドとエネアス》、モンテヴェルディ《オルフェオ》、ワーグナー《ラインの黄金》などに出演。その他オスロ・フィル、ウィーン響、マラー室内管、18世紀オーケストラ、指揮者は、ピオンデイ、プロムシュテット、コロボ、ヘレヴェッヘらと共演。CD録音は50タイトル以上に及ぶ。

加藤 宏隆(バス・バリトン) *Hirotaka Kato, Bass-Baritone*

静岡県出身。東京藝術大学卒業後、ジョンス・ホプキンス大学ピーボディ音楽院、インディアナ大学ジェイコブズ音楽院にて学び、その後フィレンツェでも研鑽を積む。国内では、二期会「ド・カルロ」宗教裁判長、「魔弾の射手」カスパール、「後宮からの逃走」オスミン、日生劇場『アイナダマール』トリバルディ、パッハ・コレギウム・ジャパン「リナルド」アルガンテ、横須賀芸術劇場『カーリユー・リヴァー』修道院長等で出演する他、2022年二期会「バルジファル」グルネマンツを演じ、好評を博した。またコンサートでも全国各地の主要オーケストラと共演、ベートーヴェン「第九」をはじめ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、パッハ「口短調ミサ曲」「マタイ受難曲」等のソリストとして活躍している。二期会会員。

松井 亜希(ソプラノ) *Aki Matsui, Soprano*

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程及び博士課程修了、博士号取得。日本ドイツ歌曲コンクール優勝、日仏声楽コンクール優勝他受賞多数。大学在籍中よりBCJのメンバーとして国内外の公演や録音に数多く参加し、近年はソリストとしても高い評価を得ており、2022年11月欧州ツアー、2023年6月ライブツイヒ・パッハ音楽祭での《ミサ曲 口短調》で、その歌唱は絶賛された。東京オペラシティ財団主催ソロリサイタル《B→Cパッハからコンテンポラリーへ》や、日本現代音楽協会主催リゲティ没後10年記念公演での《Aventures》と《Nouvelles Aventures》の上演など、バロックから現代まで広範なレパートリーを持つ。

アレクサンダー・チャンス(カウンターテナー) *Alexander Chance, Countertenor*

1992年ロンドン生まれ。オックスフォード大学ニューカレッジに学ぶ。在学中よりサンフランシスコ・グレース大聖堂での《マタイ受難曲》公演に出演するなど、すでにソリストとして国内外で活躍の場を広げる。オックスフォード・ニュー・カレッジ合唱団のメンバーとしてレコーディングにも多数参加、タリス・スコラーズ、ヴォクス・ルミニス、ジェズアルド・シックスなどのグループで、ルネサンス作品にも熱心に取り組んでいる。近年では、フライブルク・バロック・オーケストラとの《マタイ受難曲》ツアー及びパッハのカンタータの録音、エストニア・ヴォーチェス・ムジカーレとのヘンデル《メサイア》などへ出演。22年11月BCJヨーロッパ公演では大きな注目を浴び、絶賛された。

大西 宇宙(バリトン) *Takaaki Onishi, Baritone*

武蔵野音楽大学及び大学院、ジュリアード音楽院卒業。シカゴ・リリック歌劇場にて研鑽。セイジ・オザワ松本フェスティバル「エフゲニー・オネーギン」にて日本オペラデビュー後、びわ湖ホール「ローエングリン」「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」、新国立劇場「愛の妙薬」、ノースカロライナ歌劇場「カルメン」「道化師」「フィデリオ」、ヒューストン・グラント・オペラ「トゥーランドット」他、国内外で活躍。昨今では兵庫芸文の佐渡裕プロデュースオペラ「ドン・ジョヴァンニ」で絶賛された。2023/24は「こうもり」、「魔笛」、「コジ・ファン・トゥッテ」等に出演予定。五島記念文化賞オペラ新人賞、日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞。CD「詩人の恋」(ピアノ：小林道夫)をBRAVO RECORDSよりリリース。 https://www.takaakionishi.com

藤木 大地(カウンターテナー) *Daichi Fujiki, Countertenor*

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン「メデア」ヘロルド役で鮮烈にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ボローニャ歌劇場にてグルック「クレリアの勝利」マンニオ役でヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。2023年は<全国共同制作オペラ> J.シュトラウスⅡ世「こうもり」オルロフスキー役をはじめ各地でオペラ公演や演奏会への出演が予定されている。デビューから現在まで絶えず話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとり。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホールプロデューサー 2021-2023。 https://www.daichifujiki.com

佐藤 美晴(演出) *Miharu Sato, Stage Director*

ウィーン大学演劇学科に留学し、慶應義塾大学大学院美学美術史学修了。ハンブルク歌劇場で演出助手、ドイツ、オーストリア、イギリスの歌劇場で研鑽を積む。近年の演出に、東京芸術劇場/金沢県立音楽堂共同主催《こうもり》、日生劇場/びわ湖ホール《魔笛》、北とびあ国際音楽祭(ドン・ジョヴァンニ)《リナルド》、NHK音楽祭/NHK交響楽団《ドン・ジョヴァンニ》、日本フィル創立60周年《ラインの黄金》、ウィーンアルヒェ劇場《少年の不思議な角笛》等がある。第23回五島記念文化賞オペラ新人賞(演出)受賞。2019年まで東京藝術大学特任准教授、東京大学先端科学技術センター特任/客員研究員をつとめ、2020年9月よりウィーン在住。BCJとは、BCJ定期《農民カンタータBWV212》、調布国際音楽祭《コーヒー・カンタータBWV211》《パスティアンとパスティエンヌ》《劇場支配人》で演出を担当している。